

ウィスコンシン州での スクーリングの企画・実施、その評価

大久保 利 宏

はじめに

千葉県は1990年に米国ウィスコンシン州と姉妹県州を結び様々な交流を実施している¹⁾。筆者はこのウィスコンシン州にあるConcordia University Wisconsin（以下CUW）と本学とで学生間交流をはじめとした様々な交流事業の可能性について、令和4年9月に同大学や、大学周辺地域を訪問し調査した。その結果、千葉県とウィスコンシン州との連携実績や、本学の隣にある千葉大学とCUWがすでに連携協定（以下MOU）を結んでいることもあり、本年3月にCUWとMOU²⁾を結んだ。2023年5月18日にはCUWの薬学部学生・卒業生13人とDr.Castillo Uvidelio教授1人が本学を訪問し、スクーリング参加学生と交流した。

スクーリング参加学生の応募は、同年4月19日（水）に参加者募集説明会³⁾を昼休みに対面で、4月22日（土）には保護者にも説明を聞いてもらうためにオンラインで実施し、その結果応募者は12名となった。内訳は経済学部2名、国際学部10名、1年生3名、3年生9名、男女は6名の同数であった。また、スクーリングの事前学習として、学生自身による航空券の購入、ESTA申請を行うとともに、現地でのプレゼンテーションの準備など5回のミーティングを行った。

スクーリングは9月11日（月）から9月21日までの9泊11日で行われ、国際学部の土弘信彦教授（ウィスコンシン州での留学経験、国際ビジネスが専門分野）と、同じく長谷川頼子准教授（日本語教育が専門分野）と、筆者の3人が学生を引率した。予定された計画はすべて実施し、後期授業

開始前日に無事帰国した。

ここでは、学生の海外体験や国際交流の重要性や、スクーリングの企画、実施にいたる経緯、内容を明らかにするとともに、学生が今回の海外スクーリングによって得られたもの等について評価することとした。

I 大学生の海外体験の重要性

(1) 千葉大学の取組

千葉大学では、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」⁴⁾を策定し、学部・大学院生の全員留学を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化した。2020年度以降の入学者は、卒業・終了までに1度の海外留学を必要とし、単位修得（2単位以上）を伴う海外留学を卒業要件の一つとした。世界の共通語である英語を多角的に学ぶとともに、専門領域の特性に合わせたプログラムで学び、世界に通用するコミュニケーション能力を育成することを目的としている。この取組は受験生やメディアから注目された。少子化が進み高校3年生が減少傾向に進んでいる中で、少なくとも、この取組が受験生に敬遠されている様子は見ることはできない。そればかりか、因果関係は明らかではないが受験者数は増加している。その後、コロナウィルスのパンデミックにより、実際の留学は不可能となったが、オンラインによる海外大学の授業参加などが行われている。コロナウィルスが沈静化している中で、本格的な全員海外留学の成果が期待されている。

(2) トビタテ！留学 JAPAN

文部科学省では、意欲と能力あるすべての日本の若者が、海外留学に自ら一歩踏み出す機運を醸成することを目的として、2013年に、官民協働のもと「トビタテ！留学 JAPAN」とする留学促進キャンペーンを開始した。さらに、今年になってコロナウィルスのパンデミックにより落ち込んでいた留学生数をコロナ前の水準に早期に回復させることを目指し、2023年にこの取組の第2ステージをスタートさせた⁵⁾。

II 千葉県とウィスコンシン州

(1) 姉妹県州提携の経過

千葉県とウィスコンシン州の姉妹県州提携は、1990年5月21日に、当時の沼田武知事とトミー・トンプソン知事のもとで行われ、今年で33年を迎えている。また、野田市に本社を置くキッコーマンは、ウィスコンシン州南部に工場を設立してから今年で50周年を迎えている。キッコーマン取締役会長CEOであった茂木雄三郎氏（現千葉ウィスコンシン協会会長）⁶⁾が、海外事業担当の常務取締役であったときに、トミー・トンプソン知事から千葉県と姉妹県州の連携協定を結びたいので手伝ってほしいという依頼があったという。茂木氏は沼田知事の了解を得て、この提携は実現した。当時は、グローバルに展開したいとする日本企業と、日本企業に進出してほしいとするアメリカ側の思惑が一致し、姉妹提携を結ぶ自治体が多かった。千葉県では、ウィスコンシン州が大都市シカゴと近接していること、ミシガン湖に大きく接していること、バランスの取れた農林水産・工業などを有していることが、千葉県が東京に近いことや四方を海と川に囲まれていること、バランスの取れた産業を有することなど似通った環境であることが連携協定を決めた大きな理由であったとされている。

(2) ウィスコンシン州の概要⁷⁾

ウィスコンシン州は住民のルーツが州の51%を占めるドイツ系住民をはじめ、アイルランド、イギリス、北欧及び中央ヨーロッパ系の人々が95%を占めている。また、北緯42度から47度と北海道とはほぼ同じ位置にあり、大陸性の気候で豊かな水と森を有する。キッコーマンはこの豊かな水と、醤油の材料である大豆、小麦粉の生産地に近いという理由とともに、倫理観の高い人々が多い土地柄であることから工場を設立したとしている。

また、教育熱心な州として知られ、幼稚園、小学校から水準の高い行き届いた教育が行われており、1989年からは、高校での日本語教育が選択可

能になった。これは戦災孤児でアメリカウイスコンシン州フローレンス大学に留学し、卒業後スペイン語教師になり、後に日本語教育を州内で普及することになる故伊藤幸男氏（2020没）の功績が大きい。伊藤氏は、ミルウォーキーの公立高校の教員を退職後、ウイスコンシン州教育庁長官補佐官に任命され、一層日本語の普及に努めた。一方でウイスコンシン州立大学は、州都マディソンに本校があり、州内に11のキャンパス、13の教養学部キャンパスがあり、16万人の学生が学んでいる。

さらに、アメリカの「酪農王国」として知られ、チーズやバターミルク、ビールもミルウォーキーを中心に醸造所が数多くある。

Ⅲ スクーリングを実施する2つの大学

(1) Concordia University Wisconsin (CUW)⁸⁾

州内最大の人口があるミルウォーキー北部のメコン郡にあり、男女共学で私立、ルーテル教会が運営している。学生数は8000人弱であり、教育学部、薬学部、看護学部、経営ビジネス学部などがあり、大学キャンパスはミシガン湖に接し風光明媚なところである。この3月に、本学とMOUを締結した。過去に、千葉県からは、千葉県立柏高等学校理数科、千葉県立幕張総合高等学校看護科、千葉敬愛高等学校の3校がサマーキャンプ地として訪問している。CUWでは国際交流センターを設置し、海外留学生の受け入れを推進している。

(2) St. Norbert College (以下 SNC)⁹⁾

ミルウォーキーから車で2時間ほど、州北部にあるディピア郡にある私立大学で、所属宗教はカトリック教会である。学生数は約2000人の全寮制の大学である。この大学では日本語クラスが開講されており、レベルの高い日本語教育が展開されている。筆者は、2015年、前述した伊藤幸男氏とともに日本語教育についてのヒアリングに訪問したことがある。当時は中国語講座が人気を占めており日本語クラスの講座が閉鎖された直後であっ

ウィスコンシン州でのスクーリングの企画・実施、その評価
た。なお、本学国際学部の土弘信彦教授は、当大学で留学生として学んで
おり、今回のスクーリングにおいては双方の連絡調整などを行った。また、
日本語クラスを開講しているとのことから、本学で日本語教育を専門とし
ている長谷川頼子准教授にも協力を求めたところ、自費で引率をお引き受
けいただいた。

IV 企画

(1) 令和4年現地調査

令和4年学長裁量経費で現地調査を行った。以下その報告書である。

一 報告書テーマ

米国ウィスコンシン州Concordia Universityとの連携協定締結及び相互
交流の実現

○調査日程：令和4年9月16日～23日

米国ウィスコンシン州コンコルディア大学（以下CUW）スポーツビジ
ネス学科Dr.Daniel Underberg氏の招待を受けて、日米のスポーツビジネ
スについて現地調査及び担当者間協議を行った。

○CUW訪問：CUW元副学長（国際交流担当）Dr.David Birner氏から本
学との連携協定についての提案がなされた。

○現地調査内容

- ・ CUWのスポーツビジネスの授業に参加、日本のスポーツを講義
- ・ アメリカンフットボール、野球、バスケットボール等の地域に根ざし
たプロスポーツクラブ・スタジアムを視察
- ・ 地域活性化、健康増進などを目的としたサイクリングの推進
- ・ 世界的スポーツ自転車メーカートレック社¹⁰⁾の視察

○日米のスポーツビジネスの比較調査研究の可能性

スポーツビジネスの先進地である米国について本学学生が学ぶことは意
義が深く、グローバルな学びや体験が可能であり、国際学部で観光を学ぶ

学生にも波及可能であることの確信を得た。

と報告した。

(2) スポーツビジネスの先進国アメリカ

アメリカにおいてスポーツは人種の壁の打破を先導し、性差別撤廃のための舞台を提供してきた。加えて選手のためだけでなく、地域住民のために共有財産化することでスポーツを人為的集団統合の舞台に活用してきたとされている¹¹⁾。(鈴木透2018)

一方で日本のスポーツは、学校体育の中で発展してきたことから、スポーツとビジネスのつながりがなく、プロスポーツとアマチュアスポーツの隔たりが大きかった。野球、サッカーに次いでプロ化したバスケットボールや、バレーボール、ソフトボールなどはごく最近になってからである。文部科学省の組織においても、体育局の中に学校体育課、競技スポーツ課、生涯スポーツ課が存在し、あたかも体育の中にスポーツが入っているような構成となっていた。千葉県では、スポーツ振興の部署は2021年度まで、教育委員会の教育振興部体育課が担ってきた。現在では、国はスポーツ庁に、千葉県は知事部局に文化とスポーツの振興組織が移っている。こうした中で、スポーツとビジネスの親和性に気が付いていた人は、電通など広告代理店だけだったといっても過言ではない。あるいは、気が付いていても手を出さなかったともいえる。こうしたことから、我が国においてはスポーツビジネスの人材の育成が急務であり、その先進国であるアメリカのスポーツビジネスを学ぶことは大きな意味があると考えた。

(3) スポーツビジネスにおけるスタジアム・アリーナの重要性

日本再興戦略2016¹²⁾では、スポーツを成長産業の一つの柱と位置づけ、その中でもスタジアム・アリーナ改革について、コストセンターからプロフィットセンターへとし、高い収益を上げられるようにガイドラインも作成されている。広島東洋カープが、アメリカで実績がある会社に飲食店の運営を一括して任せた結果、チームの企画と連動したプロモーションを、

球団と飲食店が一緒にできるようになった。この取組によって「カーブ女子」などの新たなコンセプトが生まれたとされている¹³⁾。(森貴信2019)

こうした最近の動きはアメリカの成功モデルを参考にしているものであり、アメリカのスタジアム・アリーナを実際に見て学ぶことの重要性は論を待たない。

(4) スポーツツーリズムと地域活性化

オリンピックやサッカーワールドカップなどのメガスポーツイベントは、観戦や応援のために多くの人々を国内外から集客することができる。メガスポーツイベントまではいかなくとも、従来からハワイの閑散期と言われる12月に毎年開催されるホノルルマラソン¹⁴⁾や、ニューヨークの自動車交通を遮断して毎年5月に開催されるバイクニューヨーク¹⁵⁾は日本のマラソンファンやサイクリングファンにとっては人気のスポーツイベントで、日本からも現地に訪れ参加する人が多い。一方で、瀬戸内海をまたぐしまなみ海道¹⁶⁾も国内外のサイクリストには人気のコースとなり、二匹目のどじょうを狙った多くの自治体がサイクリングコースを整備し、集客を期待した取組を行っている。また、国土交通省も銚子から和歌山までの太平洋岸自転車道¹⁷⁾を整備し、通過自治体の取組を促進している。こうしたスポーツツーリズムは、ヨーロッパやアメリカが原点と言われ、ウィスコンシン州にも多くの自転車道（トレイル）が存在する。市街地はもちろんのこと、ミシガン湖やグリーンベイ沿いに展開するトレイルや、山岳地帯の鉄道跡地に設置されたトレイルなど実に多彩である。ウィスコンシン州の冬は厳しい寒さが訪れるというハンディがあるものの、冬は雪上バイクで楽しむなど多様な利用方法が工夫されている。今回は、こうした日本の自治体でも人気となり整備が進められているトレイルを実際に走ってみることにした。

(5) 「日本の良さ」についての英語によるプレゼンテーションの実施

学生の英語の熟度はまちまちであるが、自分の英語に対する自信を深め

る意味でも、さらなる意欲を喚起する意味においても、以下の5つの内容について英語によるプレゼンテーションを実施することとし、訪米前から準備を進めてきた。6つの内容では、2つはSNCの日本語学科の意向によるもの、2つはCUWにおける授業の内容から考案されたもの、残りの2つは学生自身の意向によるものである。

- ・千葉県（姉妹県州）、敬愛大学
- ・千葉県及び日本のスポーツ（CUWにおけるスポーツビジネス授業）
- ・千葉県のお祭り（本学学生の意向）
- ・日本のお化け（SNC日本語学科の意向）
- ・日本の食事（本学学生の意向）
- ・日本のアニメ（SNC日本語学科の意向）

2つの大学において授業の中で本学学生のプレゼンテーションをさせていただく機会を得ることは、日程調整に困難を極めた。学生自身の意向による内容は、授業外で実施することとして、CUWの学生を夕食後に招集することにした。

(6) 学生自身による航空券購入、ESTA申請¹⁸⁾等

全体経費のうち航空券の占める割合は大きいことから、旅行代理店を介さずに、学生自らがデルタ航空のサイトに入り、効率的なトランスファーが可能な最も安価な航空券を購入した。購入にあたっては、学生を一堂に集め、日時や便の間違いないように慎重に購入した。購入にあたっては、学生自身名義のクレジットカードを持っていない場合は、許可を得て保護者のクレジットカードを使うことにした。その結果、購入直後から出発直前まで航空会社からリマインドを含め数回メールが届き、自分自身で予約できていることを確認するとともに、旅行が近づいていく気持ちを高ぶらせていく効果があった。また、ESTAの申請はアメリカ入国に際して必須であることから、これも一堂に会してアメリカ大使館サイトから各自申請した。これにより、旅行代理店を介する場合と比べ安価になったととも

に、大きな実体験になったと思われる。

また、昨年からCUWのドミトリー¹⁹⁾、カフェテリアの利用について交渉をしていたところ、出発の1か月前に可能となった。また、このことによって、ようやく民間ホテルの予約も確定することになった。なお、民間のホテル、及び移動経費、その他入場料などのアクティビティに関するチケット類については、現地のClassroom Afield社に委託した。社長は元CUWの教授で、学生を地中海やニューオーリンズなど国内外に旅行させているなど、学生の旅行に関して多くの知識・経験を有している。

出発前に、CUWとClassroom Afield社に、送られてきた請求書に応じてゆうちょ銀行から国際送金した。この国際送金は困難を極めたが、その内容は後述する。

V スクーリングの実施

9月11日（月）羽田空港国際線ターミナルデルタ航空カウンター集合

学生自身がチェックイン、スーツケース等引渡し

15：25 デルタ航空276便羽田発デトロイト行

17：00□1692便デトロイト発

17：06 ミルウォーキー空港着

19：00 歓迎会

CUW近くのレストランで、6月に本学を訪問した学生と交流した。

21：00 CUWドミトリー着（CUW泊）

9月12日（火）

9：00 CUWキャンパスツアー（国際交流担当者及び学生2名が案内）

13：00 American Family Field Tour²⁰⁾

野球場内の施設を見学することから、試合が予定されていない

い日に設定し、個室やメディア専用室などを見学。フィールド内やベンチも見学できた。

15:00 Lakeside area 見学

ミシガン湖畔にある博物館、美術館を見学

20:00 プレゼンテーション準備 (CUW 泊)

出発前のプレゼンテーションの準備が足りていなかったために、急遽時間をとった。時差ほけと睡眠不足で学生は少々疲れ気味であった。

9月13日 (水)

10:00 スポーツビジネス学科授業参加

千葉県のスポート及び祭りをプレゼンテーションし、CUWの学生とスポートについて協議した。

14:00 Cederburg 歴史保存地区見学²¹⁾

CUW周辺にある古い町並み。街並みの中をミルウォーキー川が流れミシガン湖に入る、地元でも人気のスポット。

19:00 ボウリング及び夕食 (本学を訪問したCUW薬学部学生との交流)

ミルウォーキーで最も人気のスポーツであるボウリングでの交流。 (CUW 泊)

9月14日 (木)

10:00 Whistling Straits GC Tour²²⁾ (PGAゴルフコース)

世界的陶器会社のKohlerが設置、運営している。アメリカと欧州のトップ選手が対戦するPGAライダーカップが開催されている名門ゴルフクラブ。駐車場の車はほとんどがウィスコンシン州外であった。

12:00 Kohler Design Center Museum²³⁾

17:00 CUW チャペルでの讃美歌体験²⁴⁾

ウィスコンシン州でのスクーリングの企画・実施、その評価

CUW国際交流担当者や音楽教員の許可を得て、長谷川准教授のパイプオルガンの伴奏による讚美歌合唱。

チャペル内でのパイプオルガンは中西部で最大級のもの。今回のプログラムに讚美歌合唱の時間を設けたことは、本学学生にとって貴重な体験となった。CUWのIR（インスタグラム）にも動画がアップされた。

19：00 CUW学生希望者へのプレゼンテーション（薬学部講義室）
(CUW泊)

CUW薬学部や韓国・中国の留学生に対して、準備していた6つのプレゼンテーションを実施。

9月15日（金）

10：00 Harley Davidson Museum Tour²⁵⁾

2011年の東日本大震災の津波で、宮城県から小屋ごと流されアメリカ西海岸に漂着したハーレー・ダビットソンのバイクを見学。

12：00 Milwaukee Public Market²⁶⁾

15：00 Fiserv Forum Tour²⁷⁾

「Milwaukee Bucks」²⁸⁾のホームアリーナで、3年前の竣工であることから全米でもトップクラスの工夫がなされた施設であり、スポーツのみならず全米で著名な歌手などのコンサートも開催されている。

16：00 野球観戦

Milwaukee Brewers²⁹⁾ VS Washington Nationals

Tailgate Dinnerの体験

これは、野球観戦の前に、駐車場でそれぞれの車の後ろでバーベキューをして楽しむ伝統的なディナー。また、本学学生の応援は注目され、地元のTVに放送された。

American Family Field (CUW 泊)

9月16日 (土)

9:00 Saturday farmers Market

近くの農家から、野菜や花、チーズやパイなどを販売される。

12:00 SNC Festival

大学祭で、近隣の高校生のバンドなどが参加している。

18:00 ホテルチェックイン (Holiday Inn Green Bay泊)

9月17日 (日)

10:00 Door County Tour (ウイスコンシン州立公園)³⁰⁾

ミシガン湖に突き出ている半島で、州立公園になっている。

12:00 Group Biking

州立公園の中をグリーンベイ沿いにサイクリング。マウンテンバイクのレンタサイクルを使用。

(Holiday Inn Green Bay泊)

9月18日 (月)

8:30 SNC日本語授業参加

10:00 SNC日本語授業参加 (プレゼンテーション)

日本のお化けとアニメの2つをプレゼンテーションする。

日本文学の後期授業では、Ghosts & Demons in Japanという内容でお岩さんについて講義されている。プレゼンテーションはSNCの学生にとって、興味関心の高いもので日本のお化けとアニメについてのプレゼンテーションは高い評価を受けた。

11:00 SNC日本語授業参加

5人の少ない学生であったが、日本語が堪能な学生がいた。

スポーツビジネスを専門分野にする教員と今後の連携を協議する。

12:00 SNC 歓迎ランチ (カフェテリア)

13：00 Lambeau Stadium³¹⁾ パッカーズスタジアムツアー³²⁾

18：00 ホテルチェックイン (Holiday Inn Brookfield泊)

9月19日 (火)

10：30 キッコーマン工場見学³³⁾

アメリカ工場50周年の節目の年である。ウィスコンシン州への進出理由や、当時の苦難などの説明を受け工場内見学。

13：00 TREK社見学

世界屈指のスポーツ自転車メーカー。デザインや色など、まだ未発売の自転車などバックヤードの見学ができた。

9月20日 (水)

7：00 デルタ航空ミルウォーキー発2679便ミネアポリス行

前日の夜に、予定していたデトロイト発羽田空港便が欠航との連絡が入り混乱した。トランスファーがデトロイトからミネアポリスに変更になった。リマインド等がメールで届いている学生やそうでない学生とまちまちで混乱した。出発時間はほぼ変わらず羽田空港着が1時間遅れるだけの変更であったために、当初の混乱は回避され、落ち着いた帰国であった。

10：55 デルタ航空121便ミネアポリス発

9月21日 (木)

14：15 羽田空港着 解散

VI 全体費用

日本銀行外国為替市況では、出発日の9月11日9時に1ドル約147円であった。また、アメリカにおけるインフレ率は現地調査をした2022年には8%台を超えており、このスクーリングの費用については最も懸念していたところである。4月の参加希望者説明会においては、日本国内の旅行代理店は利用せずに、航空チケットとESTA申請は学生自らが購入・申請

することし、可能な限り経費を抑えた。その結果、スクーリング説明会では、およそ359,160円を経費概算として示した。朝食はすべてこの経費に含まれるが、昼食や夕食はフードコートなどにおいて自前で食べる時もあることも説明した。ほとんどの学生はパスポート取得やESTA申請が必要であり、その経費はこの費用概算には見込んでいなかったものの、その時の最も高い概算費用を提示していたことから、その経費に含まれるように努めた。

最終的な経費は下記のとおりである。

- ・航空券 160,600円 学生自身の購入
 - ・CUW ドミトリー経費（5泊食費込） 21,610円
 - ・現地旅行社支払い 120,470円
（VAN 2台、ドライバー 2人、民間ホテル 4泊、各種施設入場料等）
 - ・学生間交流費用等 11,140円
- 合計 313,820円

見込んでいた費用概算よりも大幅に減額できたのは、当初予定されていなかったCUWドミトリーに5泊できたことが極めて大きい。現地の9月は新学年が始まったばかりで、ドミトリーの利用はCUW国際交流センターからの連絡が遅く、8月になってから決定したものである。また、航空券についても、あらかじめ座席を予約できないベーシックグレードであったために、安価に購入できた。なお、座席を事前に予約はできなかったものの、学生はまとめて座席を確保できた。さらに、ウィスコンシン州は西海岸や東海岸に比べ、インフレの影響も比較的なかったのではないかと考えられる。

Ⅶ 評価

今回のスクーリングが、次年度も継続して実施されるためには、学生や保護者、大学の経費をかけていることから、きちんとした評価が必要であ

る。そのために本稿では、PDCAサイクルを考慮した構成になっている。学生にはグーグルクラスルームで、スクーリングの前日及び帰国翌日を含め、毎日の出来事を日記のように書き込むことを課した。学生は、時差ボケや、毎日の行事に追われながらも全員が書き込んだ。この書き込みがスクーリングを評価するよりどころになるものと考えているが、今後必要に応じて更なるヒアリング調査を実施することも考えている。

(1) “旅行”として評価

このスクーリングを単なる旅行として、企画・実施した側からの自己評価した場合、下記のように評価ができる。

・参加希望者説明会の内容との比較

4月に開催した学生説明会での訪問先等の内容については、すべて実施することができた。また、経費総額についても、説明会の時よりも円安の状況になったにもかかわらず、パスポート取得費用、ESTA申請費用を含めても、提示した額を上回らなかった。スクーリング中には、学生によっては飛行機酔いや強い時差ボケに悩まされたが、学生全員がすべての予定に参加し、元気に帰国できたことは評価できると考える。異文化理解という経験もできたことも有意義であったと思われる。

(2) 英語学習に関する自信又は意欲の喚起

プレゼンテーションの英語による質疑なども、アメリカ人とコミュニケーションがとれ、学生によっては自信となり、十分に取れなかった学生にとっては悔しい思いをして英語を学ぶ意欲を感じたのではないだろうか。また、空港におけるチェックインや入国審査などもそれぞれが行う必要があり、昼休みや買い物などにおける現地で生きた英語を経験したことは意義深いと思う。

(3) スポーツビジネスという観点からの評価

グーグルクラスルームなどの書き込みでは、ビジネスに関する日米の違いについてまでの感想ではなく、大きさや新しさなど表面的な違いを述べ

るに終わっている。これは、出国前の事前学習が足りなかったことが大きな原因であると考えられる。スポーツ施設の担当者の説明の際にも、積極的に英語で質問していただけない、事前学習によりさらに深い質問ができたのではないかと考えている。また、プロスポーツと大学ビジネスの関連では、パッカーズとSNCが深く連携していることがわかった。

(4) CUW や SNC の多様性

CUW や SNC において、人種や国籍が異なる多くの学生がカフェテリア等で一堂に会しているのを目の当たりにし、中国人、韓国人、アフリカ人、中南米人など日本では考えられない多様な人種に触れることができた。また、カフェテリアで働く人たちは障害がある人々が多く存在しており、その多様性について感想を話している学生がいた。さらに、CUW のチャペルでは朝を中心にお祈りの時間があり、こうしたことに触れることは、日本国内ではできず、多様性を実感できる貴重な機会であったと考える。

(5) 企画の遅れと国際送金の難しさ

CUW との調整は、Zoom やメールで行われたが、本学の夏休みが始まる8月は、CUW は新学期となる。本学としては夏休みになってから本格的に調整を始めようとする、相手側は学年始めの忙しい時期となり、「授業の準備で返信が遅くなった」などのお詫びのメールが届くなど一つの調整に手間取るケースが多かった。

また、この遅れがCUW や Classroom Afield 社への国際送金の遅れにもつながり、出発10日前に送金したものが、帰国後10日を過ぎた今も送金されていない事態が生じた。日本の銀行ではマネー・ロンダリングやテロ資金などの安全対策が厳しく、ゆうちょ銀行の案内には1週間程度で送金されるということであったが、ほぼ1か月程度を要することになり、これは大きな問題であった。相手側が、日本の状況を理解してくれているので事なきを得たものの、反省点である。

(6) 千葉県や千葉ウィスコンシン協会のサポート

ウィスコンシン州に訪問する理由を聞かれたときに、姉妹県州であることと答えることは明快な回答となるが、その連携のメリットが学生に全くないという点は問題であろう。姉妹県州の目的が文化・教育とされ、若い人たちの交流は極めて有意義である。引率する教員3人が千葉県国際課(千葉ウィスコンシン協会事務局)を訪問した際に渡されたものは英語版の「千葉県の概要」というパンフレットであった。姉妹県州を示すパンフレットやバッチなどを準備していただいてももらいたいと感じた。学生は現地で会う人会う人に姉妹県州の話をする際にも、何もないのは効率的ではない。千葉県でもウィスコンシン州でも、ほとんどの人がこの歴史ある交流について知らない。訪問する学生たちにこのことを交流した人々に周知させることを託す意味でも千葉県と同協会に検討を期待したい。

VIII まとめ

前年にCUWに訪問し現地関係者に協力依頼をし、またClassroom Afield社と周辺施設を事前調査してスクーリングの企画を練ったことは、安全で快適に目的を達することができた要因である。さらに、3月にMOUを締結したことが、ドミトリーの使用につながるなど本学に対する敬意の表れと見ることができる。このスクーリングを継続して実施していくためには次の5点が重要であると考えられる。

- (1) CUWとは今後ともMOU締結校としてお互いに尊重し、協力していく。
- (2) SNCとも早期にMOU締結を目指す。筆者はSNCにおけるスポーツビジネスを専門分野とする教授と面会することができた。SNCでもこの分野を取り入れたのは今年からである。SNCでは全米プロフットボールの名門パッカーズの戦略を授業の中で取り入れていることから、近くに3つのプロスポーツチームを抱える本学として

も興味がある。日本語教育では、SNC担当教授や国際交流担当者と本学土弘教授、長谷川准教授と協議が進められており互いの意向に差異はないものと見られる。こうしたことから、早期に締結を結ぶことが重要である。

- (3) 本学における参加者説明会は今回と同様に4月下旬に行い、5月早々の参加者を決定が必要である。その後直ちに航空券の購入を行うなどのスケジュールは踏襲してよいと思われるが、事前学習の内容や回数を増やす必要がある。また、現地の新学期が始まる前の7月には企画・プログラムを完成し、学生からの費用の徴収を早めにして現地に送金していくことが重要である。

- (4) プログラムは今回の企画をベースにする。

今回の参加者は経済学部2名、国際学部10名であり、それぞれの良さを発揮したスクーリングであった。今後は、教育学部や短期大学部を含めて募集をすることを考えているが、基本的には学生の構成に限らずプログラムの大きな変更は今のところ必要ないと思われる。

- (5) 本学及びCUW、SNCの担当者間の連携と協力者の拡大

3つの大学が今後とも連携協力していくためには、専門分野間の教員や、国際交流担当部署などの意思疎通を図っていくことが重要である。また、連携の専門分野を拡大するなど、幅広いスクーリングを目指していくことも重要である。SNCの日本語教育については成長段階であることから、本学の支援により大きく発展するものと思われ、一方でSNCの本学への支援は様々な面で有益であろう。従来は日本からアメリカへのアウトバウンドが中心であったものが、今後はアメリカ、及び海外から日本へのインバウンドの流れが加速していくことも考えられるので、今回のスクーリングで得た2つの大学との連携をさらに強化し、訪問を受ける側の準備も必要になっていると考える。

参考資料・引用文献

- 1) 千葉県HP米国ウィスコンシン州との姉妹校流
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/kokusaikouryuu/exchange/wisconsin/shimaikouryuu.html>
- 2) CUWと本学との覚書抜粋

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

CONCORDIA UNIVERSITY (hereinafter CUW), 12800 Lake Shore Drive, Mequon, WI, 53097, USA, and KEIAI UNIVERSITY, 1-5-21 Anagawa, Inage-ku, Chiba City, Chiba JAPAN 263-8588 (hereinafter Keiai) wish to establish cooperative relations and agree to collaborate as follows:

AREAS OF COLLABORATION

Subject to the availability of funds and the approval of CUW and Keiai, collaboration will be undertaken through activities or programs, with exchange details to be agreed upon in further addenda, such as:

1. Exchange of students
2. Exchange of faculty members
3. Joint research activities
4. Joint educational programs
5. Exchange of academic and research materials

TERMS OF AGREEMENT

All terms and budgets for programs implemented under this agreement shall be mutually agreed upon in writing prior to program initiation. Programs must be approved individually by authorized individuals from each party.

Each participant shall designate a liaison officer to facilitate timely and accurate communications between the parties.

For the purposes of this Memorandum of Understanding and all further communications related to each specific program between CUW and Keiai, it is understood and agreed that neither party shall be liable for any negligent or wrongful acts, either of commission or omission, chargeable to the other, unless such liability is imposed by law. This agreement and all

addenda shall not be construed as seeking to either enlarge or diminish any obligation or duty owed by one party to the other or to a third party.

RENEWAL, TERMINATION AND AMENDMENT

This agreement shall remain in force for a period of two (2) years from the date of the last signature, with the understanding that it may be terminated by either party giving thirty (30) days written notice to the partner institution.

This agreement may be amended with the consent of the two institutions through a written addendum executed by authorized individuals of both institutions. Such addenda, once approved by both institutions, will become part of this memorandum of agreement.

This agreement shall be binding upon signing by authorized individuals of CUW and Keiai and shall be effective as of the date last written below.

IN WITNESS WHEREOF, the parties hereto have offered their signatures:

3) スクーリング参加者募集説明会資料 (概要)

千葉県船橋市 米国ウィスコンシン州

海外スクーリング参加者募集説明会

(1) 4月19日(水) 12時30分～ (場所: 3301)
対象: 全学部・学年 内容: スケジュール、費用、宿舎Q&A ※参加自由(連絡不要)

(2) 4月22日(土) 13時30分～ (ZOOM) ※保護者も参加可能 参加希望者は下記大久保までメールで連絡磁付)



Wisconsin州
The State of Wisconsin
アメリカ合衆国
U.S.A.

Concordia University Wisconsin

TREK

Trail

St. Norbert College

Harley Davidson

Green Bay Packers

【海外スクーリングの概要】

- ・令和5年9月11日(月)～21日(木) 9泊11日(予定)
- ・Concordia University Wisconsin、St. Norbert Collegeにおける学習および交流
- ・世界的自転車メーカー-TREK社、キッコーマンウィスコンシン州工場(進出50周年)等訪問
- ・サイクリングTRAIL スポーツビジネス(野球、ゴルフ場、プロフットスタジアムなど訪問)
- ・グローバル思考力やスポーツによる地域活性化方策を学習
- ・日本語を学ぶ学生(St. Norbert College)との交流(日本語文化(必ずアニメ、マンガ、音楽を含む)を日本語で紹介、Q&A-情報交換)

問合せ 大久保利宏(経済学部:t-okubo@u-keiaiac.jp) 土弘信彦(国際学部) 長谷川頼子(国際学部)

費用概算 およそ359,160円 ※今後変動あり、現在の最も高い価格

○飛行機チケット（現在の価格 188,160円：14時間53分）

デルタ航空 羽田発 → ミネアポリス → ミルウォーキー（往）
ミルウォーキー発 → デトロイト → 羽田着（復）

○宿泊場所（ホテル）約6,500円×9泊＝58,500円

※大学の寮は授業シーズンで不可
※1つの部屋に3～4人（エキストラベッドを入れる）

○現地交通費 約3,500円×9日＝31,500円（15人乗りのバン）
○食事代①食 約3,500円×9日＝31,500円（大学のレストラン等 ※フードコートなどで自由に食事をする場合は除く）
○アクティビティ料金 約3,500円×9日＝31,500円（野球観戦、レンタサイクル等）
○バスポートの取得 5年→11,000円 10年→16,000円
○ESTA申請費用 約2,000円
■旅行会社 日本国内の会社は利用せず、航空券ESTAの取得は自分たちで行う
現地では旅行会社を利用する予定

- 4) 千葉大学ENGINE 学部・大学院生の全員留学について
<https://www.chiba-u.ac.jp/engine/>
- 5) 文部科学省 トビ立てて留学 Japan 第2ステージ（23～27年度）
<https://tobitate-mext.jasso.go.jp/nextstage/>
- 6) 千葉ウィスコンシン協会役員名簿
<https://chiba-wisconsin.net/about/officer/>
- 7) 千葉県HPウィスコンシン州の横顔
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/kokusaikouryuu/exchange/wisconsin/shimaikouryuu.html>
- 8) Concordia University Wisconsin
<https://www.cuw.edu/>
- 9) St. Nobert College
<https://www.snc.edu/>
- 10) TREK トレック本社
https://www.trekbikes.com/jp/ja_JP/tour-of-waterloo/
- 11) 引用文献 鈴木透著「スポーツ国家アメリカ」中央新書2018
- 12) 日本再興戦略2016 P106
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf
- 13) 引用文献 森貴信著「スポーツビジネス15兆円時代の到来」2019
- 14) ホノルルマラソン
<https://www.honolulumarathon.jp/2023/>
- 15) バイクニューヨーク BIKE NEW YORK
https://globalride.jp/event_global/bike-new-york-2020-2/
- 16) しまなみ海道 一般社団法人しまなみジャパン
<https://shimanami-cycle.or.jp/about/>
- 17) 太平洋岸自転車 国土交通省

- https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/national_cycle_route/pacific.html
- 18) ESTA 申請 在日アメリカ大使館と領事館HP
<https://jp.usembassy.gov/ja/visas-ja/esta-information-ja/>
 - 19) CUW 学生宿舎
<https://www.cuw.edu/life/residence-life/residence-halls/index.html>
 - 20) アメリカンフィールド球場見学ツアー
<https://www.mlb.com/brewers/ballpark/tours>
 - 21) ウィスコンシン州HP
<https://www.cityofcedarburg.wi.gov/>
 - 22) Whistling Straits GC HP
<https://www.destinationkohler.com/golf/whistling-straits>
 - 23) Kohler Design center HP
<https://www.destinationkohler.com/explore-more/activities-and-events/kohler-design-center>
 - 24) CUW 広報（動画）
<https://twitter.com/CUWisconsin/status/1702689955665854828?t=KE0tsmp3IpjWu1KaJaKgYQ&s=03>
 - 25) ハーレーダビッドソン博物館
<https://www.harley-davidson.com/jp/ja/museum.html>
 - 26) ミルウォーキーパブリックマーケット
<https://milwaukeepublicmarket.org/>
 - 27) Fiserv forum ミルウォーキーボックスホームアリーナ
<https://www.fiservforum.com/>
 - 28) Milwaukee Bucks ミルウォーキーを拠点とする NBA チーム
<https://www.nba.com/bucks/>
 - 29) Milwaukee Brewers ミルウォーキーを拠点とする MLB チーム
<https://www.mlb.com/brewers>
 - 30) Door County ウィスコンシン州立公園HP
<https://www.co.door.wi.gov/>
 - 31) Lambeau スタジアム パッカーズ本拠地
<https://www.packers.com/lambeau-field/>
 - 32) Packers グリーンベイを本拠地とする NFL チーム（13回優勝）
<https://www.packers.com/>
 - 33) キックマンHP ウィスコンシンでの歴史
<https://inwisconsin.com/fdi-success-story/kikkoman-foods/?!lang=ja>